

当初は畑作の邪魔になるのでは、との懸念があったが UNDP の指導を受け、納得して始めた。

- ・ この支援は土壌保護目的で行われたが、この面でも効果があった。ゴマの収量は 7 バスケット/エーカーから 14-15 バスケット/エーカーまで増えた。また、ゴマの茎は堆肥や燃料としても使う。
- ・ 同プログラムには、村の 220 世帯のうち 20 世帯が参加し、この中には土地無し農家も含まれている。
- ・ 同村では 100 世帯が土地無しであり、大工や物売りなどをして生計を立てている。女性世帯主は 20 名程度おり、土地持ち世帯もある。

3月4日(金)	11:00-12:00	MAS Magway Division Office	Magway Division
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Kyaut Maung	General Manager of Magway Division	MAS
要点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ マグウェー管区内の 5 ディストリクト、25T/S を管轄している。作付面積は 210 万エーカー以上で、主に豆類を栽培している。豆類の多くは輸出している。このほか、油脂作物 170 万エーカー、米 65 万エーカー、綿花 33 万エーカー、とうもろこし 8 万エーカー、たまねぎ・ジャガイモ 8.5 万エーカー、サトウキビ 3.8 万エーカーなどである。270 万エーカーの耕地に対し、630 万エーカーの栽培を実現(主として 2 期作を行っているとの回答であったが、むしろ、混作が多いのではないと思われる。クロッピングパターン等に関する詳細な調査が必要)。 ・ 灌漑地域は 30 万エーカー。対象作物は米のみではない。MAS は新品種、肥料などに関する農民への普及、トレーニングを実施している。作付面積の拡大は限界に達しつつあるので、今後は新種改良、バイオ肥料などによる収量向上をめざす。 ・ 管区レベルの年次計画については、2005/6 年について雨期前までに各作物について作成する。国家の 5 か年計画、30 年計画に基づいて年間計画を作る。農家の希望に基づいた毎年の作付計画があるので、地域別、作物別の計画を作る。 ・ スタッフは 29 名で全員正規職員(運転手等含む)。技術者は 15 名で作物別の担当を持つ。 			

3月4日(金)	14:00-16:30	Nyaung Bin Village	
面会者	氏名	役職	所属先
塚本、湯川、渡辺		PACT Officers	
		LVBD Officers	
		Beneficiaries	
要点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 年前から MF 支援を開始した。現在メンバーは 179 名、5 人組は 36 グループある。 ・ 7 年間融資を受け続けているメンバーもあり、これまでの貸付総額は 42.4 百万チャットに上 			

る。

- ・メンバーは必ず貯蓄することになっており、現在の貯蓄高は 156 万 4,475 チャット。メンバーになるには、最初に 5 回のトレーニングを受け 5 回の貯蓄を行う。入会金 10 チャットと 50 チャットの計 60 チャットを 5 回貯蓄する。
- ・5 人組は 2 人が 14 日間ローンを受け、返済が終わったら次の 2 人がローンを受けられる。その返済が終わった時点で最後の 1 人がローンを受けられる仕組みとなっている。
- ・返済率は全体で見れば 100%であるが、年によって 100%返済できない年もある(その場合は、返済期間を延ばす)。例えば 98 年の大干ばつの年には、(この村でなく、隣村だが)まったく返済できないこともあった。
- ・MF を受けて実施している活動は、物売り/店舗、家畜の飼育、ジャガリー生産、バッテリー屋など。
- ・砂糖ヤシを借りてジャガリー生産を行っているケース、小規模家畜から始め現在では役牛を農家に貸しているケース、土地無しから土地所有に至るケースなどがみられた。
- ・今、村に一番必要なものは、中学校(5~7)。教育省にも、中学建設の要請をあげており、学校建設の許可を受けた。ただし、許可時の条件として、中学校の建設(90ft×30ft)を村で実施することとされている。現在用地を確保し、一部中学建設のための資金を積み立てているところ。
- ・村には飲料用として 2 本の深井戸あり。又、送電線からの電力供給があり、料金は 1 戸あたり 250 チャット/月となっている。

3 月 5 日(土)	9:00-10:30	Seik Htein	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Mya Lwin	Farmer,Kya Ne Aint Village	
	U Tin Wai	Farm Manager	MAS
	U Tun Ngwe	Farmer,Ywa Thar La Village	

要点

- ・乾燥地における①斜面地での風、水による土壌流失を防ぎ、適切な作物栽培方法を研究普及すること、②アグロフォレストリーの普及、③地域に適した品質の良い種の生産・供給を目的に 1992 年に設立された。土地は 115.68 エーカー、うち 80 エーカーが栽培可能地である。キマメ、緑豆、ゴマを栽培している。職員は 3 名で、農地の耕作等は周辺の村人を雇い対応している。
- ・作付パターンは混作を行っており、5 月に栽培開始する。キマメと緑豆、キマメとゴマの組み合わせが良い。対象地域は天水地域がほとんどであり、雨も少なく、気候的には厳しい地域である。
- ・農家に対し、土壌保護の方法(Contour Band, Sediment Storage など)を指導している。
- ・トレーニングは 150-200 名/回を対象とし、年 3 回程度実施している。普及員を対象とした研修

も実施している。

- ・ MAS のデモンストレーション・ファームであるが、3名の職員体制や近年予算が減少傾向にあることも踏まえると、農地の管理ととれたクオリティシードの配布等で手一杯といった感じで、余り目を見張る普及活動を実施していないとの印象。MAS のデモファームの活用方法については、職員や財政面での現状分析を行った上で、工夫する必要がある。

3月5日(土)	15:00-16:00	Wun Dwin	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Khin Maung Myint	As. Director of T/S Office	ID
	U Chit Htwe	Dy. T/S Manager	MAS
	U Win Maung	Dy. T/S Manager	MAS
	U Wai Myint	T/S Manager	MAS

要点

- ・ 同地域の雨量は 21.34 インチ(5-11 月)であり、耕作可能地域は 34 万エーカー、耕作地は 21 万エーカーであるが、実際に作付しているのは 15 万エーカーのみである。
- ・ Kin Da ダムにより当地域では 4 万 7,000 エーカー以上を灌漑している。その他の地域は天水農法である。Kin Da ダムの灌漑面積は、約 18 万エーカーに及ぶ。
- ・ 水利組合は、ラテラル水路(二次水路)毎に設立されており、ここは、No16 水路に設けられた水利組合(80 農家で 600 エーカーの灌漑面積)。水利組合内の水配分はリーダーが決定。リーダーは水路最末端の農家が多くなる。水管理上の課題は、水配分の遅れとのこと。
- ・ 作付パターンは、灌漑地では 3 期作で、「綿花、米、ヒヨコマメ」、「米、米、ヒヨコマメ」、或いは米の三毛作である。天水地域では「ゴマ、豆類(ヒヨコマメなど)」、「ゴマ、キマメの混作」、或いは「米(ただし、ため池のある地域のみ)」である。ため池は、農家の個別所有と共同所有がある。灌漑地では、1 エーカーあたり、年間 10 万チャットの純利益があがる。
- ・ 灌漑地に土地を持っている農家に話を聞いたところ、男性はほぼ一日中農作業に従事しているとのこと。その場にいた全員が役牛 2~3 頭を持ち、そのほかに乳牛 20-25 頭(平均)、ヤギ 50-60 匹(平均)、少数の鶏を飼育していた。近所にコンデンスミルク工場があり、牛乳は品質の良し悪しに関わらず全て工場が買い取っている。家畜の世話には人を雇っている。牛乳の自家消費は稀である。
- ・ ニーズは、①肥料、②ポンプ(灌漑の水で洪水するので、排水する目的)、③農業機械の順。

3月5日(土)	16:30-18:00	Hti Hlaing Village, Wun Dwin T/S	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Naing Win	Farm Owner	Toe Naya Farm
要点			

- ・ 個人の農園で、500万チャットの初期投資で始めた。プラム、ブドウ、パパイヤなどを大規模に生産している。農園を初めて5年であるが、現在では、年間1,000万チャットを超える収益をあげている。
- ・ ブドウ等へのニーズが高く、マンダレイに近いことも手伝い、大成功。
- ・ 大学では物理学を専攻、両親は縫製工場を経営していたが、自分は農業がやりたく、農園を始めた。CDZでも、技術力があれば、成功する優良事例。
- ・ 風の強い地域であることを利用し、風力による水のポンプアップシステムを導入している。
- ・ 林業省が進めている共有林事業(50エーカー)の申請を林業省に対し行っており、認可を待っているところ。認可手続きが遅れているが、雨期が始まる前に、苗木を植える必要があり、林業省担当者の了解のもと、植林等の事業を開始している。
- ・ 自分が小さかった頃は、当地域には、もっと木があり、動物ももつといた。これが、伐採等により、木がなくなり、動物もいなくなり、どんどん環境も悪くなっている。木をたくさん植えることにより地域の乾燥した気候を少しでも改善し、当地域を自然豊かだった昔の状態に戻したい。
- ・ 果樹栽培や共有林事業に関し、大変に参考となる地区。同農園や共有林地区での活動を視察・研修等し、他地区へ波及することは有効。

3月6日(日)	10:00-11:00	Kyaupadaung T/S, Myin Gyne Dist.	
面会者	氏名	役職	所属先
調査団全員	U Myint Thein	As. Director of District Office	ID
	U Saw Thein	Staff Officer of T/S Office	ID
	U Khin Maung Tin	As. Engineer of T/S Office	ID

要点

- ・ 計画灌漑面積は 29,786 エーカーであったが、貯水池に水がたまらず、実際の最大灌漑可能面積は 96-97 の 8,640 エーカーである。97-98 の干ばつ年には 3,000 エーカーしか灌漑できなかった。2004 年には雨期米 5,606 エーカー、夏米 1,002 エーカー、綿花 769 エーカーを灌漑した。現在、ダムの貯水量を増やすため、他のダムからの導水路を建設中。
- ・ T/Sレベルで農業管理委員会を組織している。MASがリーダーシップを取っている。給水すべき作物として米と綿花を選んだのは同委員会であり、給水面積や給水のタイミングについても同委員会で検討・決定する。同委員会は毎週定期的にミーティングをしており、その週の状況に応じて給水のタイミングをランダムに決めている。ID は水量により、給水可能面積を同委員会に報告する。
- ・ 毎年の雨量によっては、水が配られない地区が多く存在するが、そういった地区からの苦情はないのか確認したが、問題は生じていないとの回答。
- ・ 水利組合は、Water course ごとに設置されている(同地区は三次水路までを ID が事業実施・管理しており、三次水路毎に水利組合を組織)。概ね 40-50 エーカーにつき 1 組合の割合である。水路の修理は毎年行う。水管理のほか、種の共同購入などを行う。